

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	大学生向けの対人問題解決力指導法及びシミュレーション教材の開発 と転移に着目した効果の検証
Title(English)	
著者(和文)	岡田佳子
Author(English)	Yoshiko Okada
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京科学大学, 報告番号:甲第393号, 授与年月日:2025年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:松田 稔樹,室田 真男,永岑 光恵,佐藤 礼子,弓山 達也
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Institute of Science Tokyo, Report number:甲第393号, Conferred date:2025/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	社会・人間科学 社会・人間科学	系 コース	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(学術)
学生氏名： Student's Name	岡田佳子		審査員主査： Chief Examiner	松田稔樹	

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、「大学生向けの対人問題解決力指導法及びシミュレーション教材の開発と転移に着目した効果の検証」と題し、全7章で構成されている。

第1章「研究の背景と目的」では、社会的コンピテンス、ソーシャルスキルトレーニング、社会的問題解決の情報処理モデル、問題解決療法など、対人問題解決力の育成に関する先行研究を分野横断的にレビューし、その力の転移に課題があることと、それを解決するには、学習科学がメタ認知の指導を取り入れることを推奨していることを明らかにした。その上で、本研究では、大学生を対象に対人問題解決力を育成する指導法及び教材を開発し、転移に着目してその効果を評価することを目的とした。

第2章「大学生の対人問題解決力育成のための縦糸・横糸モデルの定義」では、モデルをメタ認知知識として明示し、それを基準にメタ認知技能を働かせるよう指導するために、大学生の対人問題解決力育成のための縦糸・横糸モデルを定義した。モデルには、縦糸・横糸の手順と関連づけて、実践を行う予定の「人間関係論」の授業で指導していたスキルや知識を領域固有知識として明示した。また、それを有効に活用するための見方・考え方について、情報的な見方・考え方を参考に整理し、縦糸・横糸の活動内容やアウトプットを明確化した。

第3章「メタ認知知識の指導に焦点をあてた人間関係論のカリキュラム再設計」では、モデルに基づき、「人間関係論」の授業カリキュラムを再設計した。講義でメタ認知知識を一通り指導した後、授業時間外にシミュレーション教材を用いてメタ認知技能の活用促進をすることとし、講義の最後の3回はメタ認知知識の定着とメタ認知技能の活用促進を促す総合演習を行うこととした。また、通常の授業レジュメに加えて、モデルに則した思考をガイドするワークシートを作成し、モデルに則した思考の演習ができるようにした。

第4章「典型事例としての対人葛藤場面の特定と問題のパターン分け」では、96名の大学生を対象に対人葛藤場面の調査を行い、多くの大学生が経験する典型的な対人葛藤場面を特定した。相手との関係性、相手の年齢、交渉のポジションという3つの文脈要因の組み合わせによって場面をパターン分けし、講義やシミュレーション教材で使用する場면을複数作成した。

第5章「メタ認知技能を指導するための教材の開発と学習効果の検討」では、対人問題解決におけるメタ認知技能を指導するための e-learning 型シミュレーション教材を異なる場面設定で教材1と教材2の2つ作成した。問題解決に必要な知識・技能について、「レベル1：モデルに関する知識が定着している」、「レベル2：問題解決の中でメタ認知知識を使って意識的にメタ認知技能を働かせられる」という2つのレベルを仮定し、教材の問いを25項目作成した。教材は、i)対人問題解決場面の提示、ii)各過程のアウトプットの記述、iii)対話形式による思考プロセスのふりかえり」という構成とした。iii)の対話では、問いによってモデルと自己の思考過程を対比しながらモニタリングさせ、選択した回答に応じて異なるフィードバックを与えることでコントロールを促す設計とした。2020年度に人間関係論を履修した大学1～4年生99名に教材を実施した結果、教材の対話方略によってメタ認知技能の活用が促されたことが確認できたが、前提となるメタ認知知識の定着が不十分な学生が存在も明らかになった。そこで、新たにメタ認知知識の定着を促す復習教材を追加し、2021年度に人間関係論を履修した大学1～4年生124名に復習教材→教材1→教材2の順で実施した。結果より、復習教材は汎用的な手順に関する知識の定着に効果があつたが、見方・考え方には効果が不十分であった。

第6章「転移を評価するための教材の開発と転移効果の検討」では、モデルに基づく指導の効果を転移に着目して評価する手法を開発し、実践した。転移を「講義で扱った場面とは異なる新しい対人問題解決場面で、モデルに則して考えられること」と定義し、学習者の思考プロセスを評価するために、e-learning 型シミュレーション教材を用いて問題解決過程を記録する方法を採用した。教材の支援なしにモデルに則して問題解決できるかを評価するために、手順を示したり、フィードバックを与えたりはせずに、選択肢によって分岐する設計とした。2022年度に人間関係論を履修した127名から任意参加の38名の協力者を得て、講義終了2～3か月後に転移評価のための教材を実施した。結果より、38名中13名(34%)が転移したと判断された。転移しなかった学生についてモデル習得のどこに躓きがあるかを検討した結果、問題解決の各過程が何をする過程で、アウトプットが何であるのかについて十分理解できていない、見方・考え方を意識的に活用できていない、合理的判断過程をとばして問題解決をしているという特徴があることがわかった。

第7章「総合的な考察と今後の展望」では、本研究で得られた成果と明らかになった課題について考察した。今後の展望として、転移を可能にする指導法と転移効果を評価する方法の具体的な改善方針を示した。

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東京科学大学リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Science Tokyo Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	社会・人間科学 社会・人間科学	系 コース	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(学術)
学生氏名： Student's Name	岡田佳子		審査員主査： Chief Examiner	松田稔樹	

要旨（英文 300 語程度）

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This thesis developed an instructional method based on the warp-and-woof model to enable the transfer of interpersonal problem-solving skills among university students. Further, it sought to evaluate the effectiveness of the instructional process. It comprises seven chapters. Chapter 1 presents a cross-disciplinary review of past research on developing interpersonal problem-solving skills. It also examines challenges in skill transfer and suggests integrating metacognitive instruction to address them. Chapter 2 defines the warp-and-woof model for developing interpersonal problem-solving skills among university students. Based on this model, Chapter 3 redesigns the curriculum for the human relations classes. Chapter 4 identifies the typical interpersonal conflicts experienced by university students. Various conflict situations were categorized for use in the lectures and simulation materials. Chapter 5 describes the development of two e-learning simulation materials to promote the utilization of metacognitive skills in interpersonal problem-solving. Additionally, based on a formative evaluation of the curriculum and e-learning materials in 2020, review materials were added to enhance the retention of metacognitive knowledge. In 2021, practical lessons using three e-learning materials, including review materials, demonstrated that these resources effectively consolidated knowledge of general procedures but were ineffective in shaping ways of viewing and thinking. Chapter 6 highlights the newly developed e-learning simulation material to evaluate the transfer. In 2022, 38 out of 127 students studying human relations classes will be administered material to assess their transfers 2-3 months after the lecture. The results showed that 13 students could think based on the model and successfully transferred their skills. Those who failed to transfer their learning outcomes had the following characteristics: 1) their understanding of general procedures had not yet been established, 2) they were not consciously using ways of viewing and thinking, and 3) they solved problems without engaging in the rational judgment process. Chapter 7 proposes specific improvement strategies for teaching methods that enable the transfer of skills and methods and evaluates their effects.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東京科学大学リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Science Tokyo Research Repository Website (T2R2).